Kabayaki Basic for Linux

インストール手順説明書 Version 4.1.0

第 1 版　2014 年 6 月 23 日

Kabayaki for Linux
更新履歴

2014-6-23 Kabayaki for Linux Version 4.1.0 released.

- Windows Server 2008 R2 に対応
- Namazu 2.0.21 のマージ
  (本バージョンから、Namazu を依存パッケージとしてインストールする必要がなくなりました)
- わかち書きに使用する形態素解析を MeCab に変更
- SGML 文書に対応

2009-5-1: Kabayaki for Linux Version 3.0.1 released.

- 「フィルタ設定」画面での「検索対象外ファイル名」指定が、インデクシング失敗の原因となることがある問題の修正
- インデクシング時に、削除されたと認識された文書がある場合の、文書数カウントの異常の修正

2009-4-1: Kabayaki for Linux Version 3.0.0 released.

- XML 文書に対応。.xml の拡張子をもち、<“?xml で開始するファイルのタグを除去してテキストを抽出
- 検索結果の中の文書内容の一部表示について、検索キーワードの周辺を優先して表示する機能を追加
- インデクシングの際には検索対象の全文書が store ディレクトリに一時保存されていたアルゴリズムを修正
- Web スパイダの性能改善 (注意 : アップデート直後には、再構築の際と類似の動作をし、全文書を対象にインデックスを作り直します)
- インデックスの表示名を後から変更可能にする機能を追加
- 対応ブラウザに Firefox 3.0.0 を追加
- フィルタ画面の検索対象外のファイル名指定 (旧名称「検索対象外のファイル拡張子」) で、先頭に強制的に * を付与する処理の除去
- Red Hat Enterprise Linux 5.0 上で、日本語名のファイルを処理する際の、差分インデクシングの不具合を修正

2008-12-15: Kabayaki for Linux Version 2.2.1 released.

- kabacat.pl が文書フィルタの終了状態を正確に受け取ることができないことのあった問題を修正

- MS Office 文書からテキストを抽出する際に、二重に取得したり余分なデータを出力することのあった問題の修正

2008-6-24: Kabayaki for Linux Version 2.2.0 released.

- Red Hat Enterprise Linux 5.0 対応
- Namazu 2.0.18 対応
- 一太郎 2008 対応
- PDF 1.7 (Acrobat 8) 対応
- クロスサイトスクリプティング の問題を修正
- 内部名が「0」のインデックスを削除する際の、crontab からの削除処理を修正
- 半角の括弧 ( ) を含む URL を基点に指定したときの動作異常を修正
- インデックス追加およびチューニング画面のヘルプ画面への追記

2007-10-2: Kabayaki for Linux Version 2.1.0 released.

- MS Office 文書 2007 に対応
- Namazu 2.0.17 対応
- 検索文字列として半角カタカナが指定されたときの動作改善
- 基本認証のユーザー名またはパスワード文字列によって、基本認証指定の Web スパイダが正常に動作しないことのある問題の修正
- フィルタ設定の対象外パス指定で、パスの文字列が 0 や 1 の場合、および、0x5b、0x5c、0x5d、0x5e を含む文字列である場合に正常動作しない問題の修正
- 「インデクシング」実行時に更新されていないファイルが store フォルダにコピーされてしまうことのある問題の修正

2006-10-31: Kabayaki for Linux Version 2.0.2 released.

- 検索結果のページ一覧 (最大 20 ページ表示) に、21 ページ以降のページがスライドして表示されるように修正
- ASCII 文字を含むファイルのインデックス生成に非常に時間のかかることのある問題を修正
- 「Kabayaki について」(about.cgi) のページに Enterprise 版と表示される問題を修正
- ログ一覧のヘルプ画面の修正

2006-06-27: Kabayaki for Linux Version 2.0.0 released.

- Kabayaki 管理画面の外観および操作方法を Kabayaki Enterprise と統一
- Kabayaki 検索画面の外観の修正および hobby と namazu テンプレートの廃止
- 古いログファイルを削除する機能を追加
- Red Hat Enterprise Linux 4.0 対応
- Adobe Acrobat、Microsoft Word/Excel/PowerPoint の文書フィルタ (製品版に同梱) の精度の向上 （要インデックス再構築）
- Namazu 2.0.16 対応

2006-02-28: Kabayaki for Linux Version 1.5.2 released.

- MS Office 文書 2003 に対応

- 埋め込みフォントを含む PDF ファイルからのテキスト抽出の不具合を修正 （製品版）（要インデックス再構築）
- 検索結果の中の文書への URL をエンコードする際に "." を "%2e" に変換することにより、ブラウザのファイル自動認識が失敗する原因になることがある不具合を修正
- 「0」ディレクトリ以下のサブディレクトリが検索できない不具合を修正

2005-09-13: Kabayaki for Linux Version 1.5.1 released.

- 検索結果画面に表示されるインデックスの順番を内部名の順に変更
- 検索結果画面に表示される最終更新日付が更新されないことのある不具合を修正
- 検索時の内部処理の中で最大ヒット数を超えた分かち書きの要素が存在する場合の不具合を修正

2005-01-13: Kabayaki for Linux Version 1.5.0 released.

- インデックス再構築の実行間隔、開始時刻を指定する機能の追加
- インデクシングおよび再構築の曜日指定機能の追加
- フィルタ設定画面の改良
- 検索結果画面の改良
- 埋め込みフォントを含む PDF ファイルからのテキスト抽出の不具合を修正 （製品版）（要インデックス再構築）
- Office 文書、PDF 文書等を対象に、全角英数字や半角カタカナを含むキーワードを検索する際の不具合を修正 （製品版）（要インデックス再構築）
- 特定の条件下で検索結果画面の表示が崩れる不具合を修正
- 検索結果画面上で、日付、ファイルサイズ等のフィールドの強調表示を抑止するように修正
- Namazu 2.0.14 対応

2004-06-30: Kabayaki for Linux Version 1.4.0 released.

- Red Hat Enterprise Linux 3.0 対応
- Namazu 2.0.13 対応 （Namazu 2.0.13 での使用を正式サポート開始。また、文書フィルタのベースを Namazu 2.0.13 に更新）
- UTF-8 コードのテキストと HTML に対応 (別途提供の perl-NKF 2.04 パッケージが必要)
- フィルタ設定で、.txt のみを検索対象に指定したときの不具合を修正
- ファイル名が指定されたときの検索結果の精度の向上
- 上限値を超えたファイルがあるときの、インデックス作成時の処理速度改善
- 差分インデクシングで、削除されたファイルが存在する場合に対応
- インデックスの表示名、コンテンツ名、検索対象外のパスの指定時の、機種依存文字や半角カタカナのチェックを強化して動作異常を防止

2004-03-10: Kabayaki for Linux Version 1.3.0 released.

- Red Hat Enterprise Linux 2.1 対応
- Adobe Acrobat、Microsoft Word/Excel/PowerPoint、ジャストシステム 一太郎の文書フィルタ (製品版に同梱) の精度の向上 （要インデックス再構築）

- HTML など GPL 版に含まれる文書フィルタの精度の向上 （要インデックス再構築）
- ローカルファイルのインデクシングの処理速度の向上 （要インデックス再構築）
- Web スパイダーで、URL に空白文字が含まれているとインデクシングされなかった不具合を修正
- 部分一致検索の不具合を修正

2004-01-13: Kabayaki for Linux Version 1.2.1 released.

- Adobe Acrobat 6.0(PDF 1.5)、Microsoft Word/Excel/PowerPoint 文書フィルタの精度を向上 （要インデックス再構築）
- RedHat Linux 9 へ対応
- 文書中の半角カタカナを、検索キーワードに全角カタカナを入力することにより検索できるよう対応 （要インデックス再構築）
- インストールとアンインストールを繰り返すとインデックスリストが壊れることがある不具合を修正
- フィルタ設定画面における記述を修正
- namazu テンプレート使用時に検索結果のファイルサイズが正しくない不具合を修正
- 特定の書式で検索した場合、検索結果の表示が崩れる不具合を修正
- Web スパイダーで、一部 GET メソッドで辿れなくなる不具合を修正

2003-8-04: Kabayaki Version 1.2.0 released.

- コンテンツ設定で特定のパターンの URL を登録すると表示が崩れる不具合の修正
- 記号のみをキーとした検索への対応
- WebSpider で特定のパターンの URL を取得する際の不具合を修正（製品版）（要インデックス再構築）
- WebSpider のキャッシング時の階層処理の不具合を修正（製品版）
- 文書中の半角カナを対象とした検索に対応

2003-6-30: Kabayaki Version 1.1.5 released.

- WebSpider の robots.txt 処理の不具合の修正および robots.txt パーサの変更（製品版）
- WebSpider の、アドレスに # が含まれている場合の処理を修正（製品版）
- WebSpider が mhonarc で作成した HTML のリンクをたどれないことがある不具合を修正（製品版） （要インデックス再構築）
- WebSpider のキャッシング時の階層処理の不具合を修正（製品版）
- 自動インデクシング実行時刻をより柔軟に設定できるよう変更
- mhonarc の出力したファイルをインデクシングしない不具合を修正
- ローカルパスの検索対象外パスが動作していない不具合を修正
- 検索キーワードのわかち書き機能を強化

2003-5-16: Kabayaki Version 1.1.4 released.

- WebSpider のフィルタ設定の強化（製品版）
- WebSpider のキャッシングの向上と高速化（製品版）（要インデックス再構築）

- 辞書のエクスポート機能の追加（製品版）
- 辞書登録を意図的に空にした場合に、インデクシング時に警告を出す不具合を修正（製品版）
- コンテンツ未設定インデックスが存在する場合に、検索画面で最終更新日付が表示されないことのある不具合を修正
- 非常に大きな Excel のファイルに対してインデクシングを実行した際に core dump する不具合を修正（製品版）
- セキュリティパスワードつき PDF の検索に対応（製品版）
- 全角数字の検索に対応（製品版）
- Apache が生成するインデックスファイルのスコアを下げるように変更（製品版）
- 特定の組み合せの設定時に WebSpider がリンクをたどれないことがある不具合を修正（製品版）
- ライセンスに問題のある場合場合、より詳細な情報を出力するよう変更
- 全てのインデックスを検索するパラメータ ALL を追加
- 検索時のエラーメッセージを検索結果の上部に表示するように変更
- WebSpider が HTTP プロキシを経由できる機能を追加（製品版）
- WebSpider の検索除外パスを設定機能を追加（製品版）
- '*' を検索した場合に、画面がくずれる不具合を修正
- マッチした文書数が非常に多い場合の検索速度を向上

2003-2-28: Kabayaki Version 1.1.3 released.

- RedHat8.0 に対応
- RTF に対応 (製品版) (要インデックス再構築)
- 日本語を含むファイル名に対応
- 半角数字の検索に対応 (要インデックス再作成)
- WebSpider の検索除外パス設定機能を実装 (製品版)
- WebSpider が特定の条件下でリンクを辿らない不具合を修正 (製品版)
- mail/news ファイルを検索できなかった不具合を修正
- META タグの name=keywords と name=description の検索に対応 （要インデックス再作成）
- HTML の TITLE タグ等、一部のタグ内が全文検索出来ない不具合を修正 （要インデックス再構築）
- Word/Excel 等の文書が検索検索結果一覧に表示された場合、タイトル部分に文書プロパティのサブタイトルが表示される不具合を修正 (製品版) （要インデックス再構築）
- * を使った部分一致検索で、検索結果画面の表示が崩れる不具合を修正

2002-12-27: Kabayaki Version 1.1.2 released.

- WebSpider 機能を追加 (製品版)
- 「Kabayaki について」の画面が文字化けする場合がある不具合を修正
- チューニング画面の表示を修正
- 「テキストの上限値」から「テキストサイズ」の上限値に変更
- HTTP サーバーのログに、テンプレートの警告が出る不具合を修正
- 表示する Subject の最大サイズを 42byte から 50byte に変更

- 2byte コードの途中で Subject と URL が切り捨てられる不具合を修正
- インデックスに関連するデータのファイルサイズを大幅に縮小
- 検索結果一覧のタイトル項目がファイル名の場合、日本語が正しく表示されなかった点を修正

2002-12-09: Kabayaki Version 1.1.1 released.

- 一太郎 Ver8 ファイルで、テキスト抽出できない不具合 (製品版)
- Excel ファイルでマクロ指定がされていた場合に core dump する不具合を修正 (製品版)
- Netscape でキーワードがハイライト表示されなかった点を修正 (要テンプレート再設定)
- etc/apache.conf を httpd.conf で Include するように修正
- chasen-config を使って chasen の設定をするように修正（ソースインストール）
- インデクシングの自動実行をした際に、Perl の警告が出る点を修正
- Namazu ライクなテンプレートを用意
- 検索テンプレートの追加機能を追加
- チューニングとログ一覧のヘルプを修正
- ファイル先頭の Perl のパスがハードコーディングされていた点を修正（ソースインストール）

2002-10-07: Kabayaki Version 1.1.0 released.

- フィルタ設定画面で表示する拡張子の項目を追加
- インデックスの内部名、表示名の文字数を制限するように変更
- クリアボタンを消去
- ヘルプを作成
- インデックスの削除の前に、確認画面を表示するように変更
- インデックスの再構築機能を追加
- ディレクトリ構成の変更とそれに伴う修正
- HTML を修正してブラウザの負荷を大幅に軽減

2002-09-20: Kabayaki Version 1.0.1 released.

- クロスサイトスクリプティング脆弱性の問題を修正

2002-08-12: Kabayaki Version 1.0.1 released.

- 自動インデクシングで、word や excel 等の文書フィルタが正常に動作しない不具合を修正
- スコアバーの塗りつぶされた部分の幅が 0 だった場合に表示が崩れる不具合を修正
- インデックス削除ボタンの 2 度押しの不具合を修正
- フィルタ設定の「検索対象外パス追加」部分の注意文言を修正
- コンテンツ一覧の「削除フラグ」の幅を縮小
- コンテンツ一覧に「削除フラグ」の文言を追加
- Netscape で管理画面を閲覧した場合、表示がくずれる場合があった不具合を修正
- チューニング画面の表示を修正
- 「テキスト上限値」を「単語長の上限値」に変更
- 検索トップページ (enterprise) の検索方法ボタンのリンクミスを修正

2002-06-24: Kabayaki Version 1.0.0 released.

Kabayaki for Linux
更新履歴　I

はじめに　1

動作環境　1
サーバー側　1
クライアント側　1

第 1 章　インストール (Red Hat Linux) Kabayaki とその他のパッケージの導入　3

Kabayaki の入手　3
Kabayaki の動作に必要なソフトウェア　3
必要な依存パッケージの取得　4
依存パッケージのインストール　5
kabayaki のインストール　9
kabayaki パッケージのインストール　9
sansyo パッケージのインストール　9
Kabayaki を動作させるための設定　10
license ファイルのコピー　10
ファイルの所有者の変更　11
SELinux を無効に設定　11
httpd.conf の修正　11
動作確認　12

第 2 章　アンインストール (Ret Hat Linux)　15

Kabayaki と関連パッケージの削除　15
sansyo パッケージのアンインストール　15
kabayaki パッケージのアンインストール　16

付録 A　安全に運用するための諸設定　17

アクセス制御 (Red Hat Linux)　17
httpd.conf の編集　17
AuthUserFile の作成　18

はじめに

動作環境

Kabayaki を動作させるサーバー側の動作環境と、Kabayaki で検索した結果を表示させるクライアント側の動作環境は以下の通りです。

サーバー側

OS:

- Red Hat Enterprise Linux 6.x (64 ビット版、32 ビット版) 対応
- Red Hat Enterprise Linux 5.x (64 ビット版、32 ビット版) 対応

Web サーバー :

- Apache 2.x (OS に付属のものを使用することを推奨)

クライアント側

Web ブラウザ

- Microsoft Internet Explorer 10
- Microsoft Internet Explorer 11
- Firefox 29 以上

第 1 章　インストール (Red Hat Linux) Kabayaki とその他のパッケージの導入

Kabayaki の入手

Kabayaki 一式は以下の URL からダウンロードできます。

http://www.kabayaki.jp/page-product-KabayakiDownload.html

Kabayaki 関連のパッケージは、作業ディレクトリへまとめて展開して作業することをお勧めします。

Kabayaki の動作に必要なソフトウェア

Kabayaki を動作させるために必要なパッケージが存在します。これらのパッケージのインストールは、Kabayaki をインストールする前に済ませておく必要があります。

パッケージに関する情報は、以下の URL でお知らせしています。

http://www.kabayaki.jp/page-product-install_rpm.html

表 1 あらかじめインストールが必要な依存パッケージ一覧

expat 1.95.1 以上
perl-XML-Parser 2.30 以上
perl-File-MMagic 1.12 以上
perl-XML-Writer 0.4 以上
perl-Jcode
perl-CGI
perl-CGI-FastTemplate
perl-URI
perl-NKF 2.04 以上
perl-DBI 1.48 以上
perl-DBD-SQLite

表 1 あらかじめインストールが必要な依存パッケージ一覧

mecab 0.996
perl-mecab 0.996
mecab-ipadic-EUCJP

必要な依存パッケージの取得

Kabayaki に必要な依存パッケージのいくつかは yum install の実行により取得できます。詳細は、次項の「依存パッケージのインストール」を参照してください。

```
# yum install perl-XML-Writer
# yum install perl-NKF
...
```

その後で、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/ *バージョン*/RPMS/i386/ (32 ビット OS 用) または http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/ *バージョン*/RPMS/x86_64/ (64 ビット OS 用) から、必要な残りの RPM パッケージを一通り取得します。

表 2 依存パッケージ一式が格納されている場所

バージョン	パッケージの置き場所
RedHat Enterprise 5 (32 ビット)	http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/redhatE5/RPMS/i386/
RedHat Enterprise 5 (64 ビット)	http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/redhatE5/RPMS/x86_64/
RedHat Enterprise 6 (32 ビット)	http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/redhatE6/RPMS/i386/
RedHat Enterprise 6 (64 ビット)	http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/redhatE6/RPMS/x86_64/

※ ベータ版の時点では URL 公開していないため、別途同梱してお渡しします。

インストール済みのパッケージも含め、念のためにディレクトリ内の RPM パッケージは全てダウンロードしておくことをお勧めします。

上記の依存パッケージの置き場所には、Apache HTTP Server は含まれていませんが、Kabayaki パッケージをインストールするときには、Apache がインストール済みである必要があります。

http://httpd.apache.org/ からダウンロードした Apache HTTP Server をソースインストールして使用することを可能にするために、Kabayaki はインストール時に Apache パッケージのインストールの有無はチェックしない仕様になっています。ただし、Kabayaki といっしょに使用することが推奨されているのは、使用している OS で提供されている RPM パッケージです。異なるバージョンの OS のパッケージを流用した場合の動作は保証されません。

依存パッケージのインストール

まず、Kabayaki に必要な依存パッケージのうち、スーパーユーザーの権限で yum install を実行することによりインストール可能なパッケージをインストールします。

その後で、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/ *バージョン*/RPMS/i386/ (32 ビット OS 用) または http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/ *バージョン*/RPMS/x86_64/ (64 ビット OS 用) から取得した RPM パッケージを、rpm コマンドを使用してインストールします。

パッケージのバージョンが間違っていたり、異なる OS 用の RPM パッケージをインストールしてしまったりすると、Kabayaki が正しく動作しないことがあるので注意してください。

RHEL 5 の 32 ビット OS でのインストール

スーパーユーザーの権限で yum install を実行します。

```
# yum install perl-XML-Parser

# yum install perl-DBI

# yum install httpd
```

それから、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/RHEL5/RPMS/i386/ から取得した RPM パッケージを、rpm コマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -ihv perl-DBD-SQLite-1.14-1.el5.rf.i386.rpm perl-CGI-
  FastTemplate-1.09-1.2.el5.rf.noarch.rpm perl-File-MMagic-1.27-
  1.el5.rf.noarch.rpm perl-Jcode-2.06-1.el5.rf.i386.rpm perl-XML-Writer-
  0.603-1.el5.rf.noarch.rpm
```

システム上に既に古いバージョンのパッケージが rpm により導入されている場合は、-i ではなく -U オプションを使います。

MeCab については、必ず同梱または www.kabayaki.jp サイトからダウンロードした RPM パッケージをインストールしてください。異なるバージョンのパッケージまたはソースインストールした MeCab での動作は保証されていません。

```
# rpm -ihv mecab-0.996-1.i386.rpm mecab-ipadic-EUCJP-
  2.7.0.20070801-8.1.i386.rpm perl-mecab-0.996-1.2.i386.rpm
```

RHEL 5 の 64 ビット OS でのインストール

スーパーユーザーの権限で yum install を実行します。

```
# yum install perl-XML-Parser

# yum install perl-DBI

# yum install httpd
```

それから、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/RHEL5/RPMS/x86_64/ から取得した RPM パッケージを、rpm コマンドを使用してインストールします。

システム上に既に古いバージョンのパッケージが rpm により導入されている場合は、-i ではなく -U オプションを使います。

```
# rpm -ihv perl-Net-Daemon-0.43-1.el5.rf.noarch.rpm perl-PlRPC-
  0.2018-1.2.el5.rf.noarch.rpm

# rpm -Uhv perl-DBI-1.58-2.el5.rf.x86_64.rpm

# rpm -ihv perl-NKF-2.07-1.1.fc6.x86_64.rpm

# rpm -ihv perl-DBD-SQLite-1.31-2.x86_64.rpm perl-CGI-
  FastTemplate-1.09-1.2.el5.rf.noarch.rpm perl-File-MMagic-1.27-
  1.el5.rf.noarch.rpm perl-Jcode-2.06-1.el5.rf.x86_64.rpm perl-XML-
  Writer-0.603-1.el5.rf.noarch.rpm
```

MeCab については、必ず同梱または www.kabayaki.jp サイトからダウンロードした RPM パッケージをインストールしてください。異なるバージョンのパッケージまたはソースインストールした MeCab での動作は保証されていません。

```
# rpm -ihv mecab-0.996-1.x86_64.rpm mecab-ipadic-EUCJP-
  2.7.0.20070801-8.1.i386.rpm perl-mecab-0.996-1.x86_64.rpm
```

RHEL 6 の 32 ビット OS でのインストール

スーパーユーザーの権限で yum install を実行します。

```
# yum install perl-NKF

# yum install perl-DBI

# yum install perl-XML-Parser

# yum install perl-DBD-SQLite

# yum install perl-CGI

# yum install httpd
```

システム上に既に古いバージョンのパッケージが rpm により導入されている場合は、-i ではなく -U オプションを使います。

それから、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/RHEL6/RPMS/i386/ から取得した RPM パッケージを、rpm コマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -ihv perl-CGI-FastTemplate-1.09-1.2.el6.rf.noarch.rpm perl-
  Jcode-2.07-1.el6.rf.noarch.rpm perl-File-MMagic-1.27-
  7.el6.noarch.rpm perl-XML-Writer-0.612-2.el6.rfx.noarch.rpm
```

システム上に既に古いバージョンのパッケージが rpm により導入されている場合は、-i ではなく -U オプションを使います。

MeCab については、必ず同梱または www.kabayaki.jp サイトからダウンロードした RPM パッケージをインストールしてください。異なるバージョンのパッケージまたはソースインストールした MeCab での動作は保証されていません。

```
# rpm -ihv mecab-0.996-1.el6.i386.rpm mecab-ipadic-EUCJP-
  2.7.0.20070801-8.el6.1.i386.rpm perl-mecab-0.996-1.el6.i386.rpm
```

RHEL 6 の 64 ビット OS でのインストール

スーパーユーザーの権限で yum install を実行することにより、以下をインストールします。

```
# yum install perl-XML-Writer
# yum install perl-NKF
# yum install perl-DBI
# yum install perl-XML-Parser
# yum install perl-DBD-SQLite
# yum install perl-CGI
# yum install httpd
```

それから、http://www.kabayaki.jp/pub/gpl/RHEL6/RPMS/x86_64/ から取得した RPM パッケージを、rpm コマンドを使用してインストールします。

```
# rpm -ihv perl-CGI-FastTemplate-1.09-1.2.el6.rf.noarch.rpm perl-File-
  MMagic-1.27-7.el6.noarch.rpm perl-Jcode-2.07-1.el6.rf.noarch.rpm
```

システム上に既に古いバージョンのパッケージが rpm により導入されている場合は、-i ではなく -U オプションを使います。

MeCab については、必ず同梱または www.kabayaki.jp サイトからダウンロードした RPM パッケージをインストールしてください。

異なるバージョンのパッケージまたはソースインストールした MeCab での動作は保証されていません。

```
# rpm -ihv mecab-0.996-1.el6.x86_64.rpm mecab-ipadic-EUCJP-
  2.7.0.20070801-8.el6.1.i386.rpm perl-mecab-0.996-1.el6.2.x86_64.rpm
```

MeCab のファイル追加

MeCab のパッケージのインストールが済んだら、同梱または http://www.kabayaki.jp/ からダウンロードした ipadic-EUCJP.tgz を展開して、/usr/lib/mecab/dic/ipadic-EUCJP/ にコピーします。

```
# tar zxvf ipadic-EUCJP.tgz
ipadic-EUCJP/
ipadic-EUCJP/feature.def
ipadic-EUCJP/model.def
# cp ipadic-EUCJP/* /usr/lib/mecab/dic/ipadic-EUCJP/
```

これらのファイルは Kabayaki 管理画面で単語登録 (「取扱説明書」の第 2 章参照) する際に必要となります。

kabayaki のインストール

kabayaki パッケージのインストール

kabayaki パッケージのインストールは、スーパーユーザーの権限で実行します。

kabayaki を新規にインストール

インストール先のサーバーが 32 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -ivh kabayaki-4.1.0-1.i386.rpm
```

インストール先のサーバーが 64 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -ihv kabayaki-4.1.0-1.x86_64.rpm
```

以前のバージョンから Kabayaki をアップデート

インストール先のサーバーが 32 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -Uvh kabayaki-4.1.0-1.i386.rpm
```

インストール先のサーバーが 64 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -Uvh kabayaki-4.1.0-1.x86_64.rpm
```

注意 ：Kabayaki Basic 2.2.x 以前からアップグレードした直後のインデクシングは、再構築の際と同様に検索対象の文書を全走査します。再構築とときとは異なり store ディレクトリ下にあるファイルは明示的に削除されませんが、その情報を元に差分インデクシングを実行することはありません。

sansyo パッケージのインストール

オプションパック sansyo は高性能のフィルタや Web スパイダや辞書登録などの追加機能を含めた Kabayaki の追加パッケージです。sansyo のインストールも、スーパーユーザーの権限で実行します。

sansyo を新規にインストール

インストール先のサーバーが 32 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -ivh sansyo-4.1.0-1.i386.rpm
```

インストール先のサーバーが 64 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -ihv sansyo-4.1.0-1.x86_64.rpm
```

sansyo をアップデート

インストール先のサーバーが 32 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -Uvh sansyo-4.1.0-1.i386.rpm
```

インストール先のサーバーが 64 ビット OS ならば、以下のコマンドを実行します。

```
# rpm -Uvh sansyo-4.1.0-1.x86_64.rpm
```

以上で、Kabayaki とその他のソフトウェアのインストールは完了しました。続いて、Kabayaki を動作させるための設定をします。

注意 1 : Kabayaki Basic 3.0.0 以降のライセンスコードは、2.2.1 以前のバージョンの Kabayaki のものと互換性はありません。

正規ユーザーの方は、support@kabayaki.jp にお問い合わせください。

注意 2 : Kabayaki Basic 4.1.0 以降 では、Linux 用の辞書が Chasen から MeCab に変更になったため、そのままアップグレードして辞書の内容を引き継ぐことはできません。

Kabayaki 管理画面の「辞書一覧」メニューを使用して、単語を登録済みの場合は、以下の作業が必要です。

1. 「辞書一覧」画面で「単語一括 / 登録」ボタンをクリックして、「単語一括登録」画面を表示させる。
2. 「辞書の内容の書き出し」テキストリンクをクリックして、辞書の内容を CSV ファイルに保存する。
3. /var/kabayaki/dic/TIM.dic ファイルを手動で削除する
4. アップグレード後に、「単語一括登録」画面の「登録」ボタンをクリックして、2. で保存しておいた CSV ファイルをインポートする。

また、新しい標準辞書の内容を検索インデックスに反映させるためには、インデックスの再構築が必要となります。

Kabayaki を動作させるための設定

license ファイルのコピー

製品版 Kabayaki を購入すると、タイムインターメディア社からライセンス用の license というファイルが送付されます。このファイルを /usr/share/kabayaki/license に手動でコピーしてください。一部の電子メールソフトウェアでは、添付された license のファイル名が license.dat となってしまうことがあります。その場合は必ず license と名前を変更してください。

```
# cp license /usr/share/kabayaki/license
```

ファイルの所有者の変更

HTTP サービスを、ユーザー apache、グループ apache 以外の権限で動作させている場合は、kabachown コマンドを実行して、Kabayaki 関連のファイルの所有者を変更する必要があります。(RPM パッケージの Apache をインストールした場合は、/etc/httpd/conf/httpd.conf を明示的に書き換えないかぎり、ユーザー apache、グループ apache でプロセスが動作するため、kabachown を実行する必要はありません)。

ユーザーとグループを変更するには Kabayaki 付属の kabachown コマンドを、スーパーユーザーの権限で実行します。

たとえば、ユーザー kabayaki、グループ search で HTTP サービスのプロセスが動作している場合は、以下のように実行します。

```
# /usr/sbin/kabachown kabayaki search
```

注意 : kabachown は、Kabayaki のインストール直後に使用するためにのみ提供されているコマンドです。すでにインデックスが作成されている Kabayaki システムに対して実行すると、次回以降のインデクシングが正常に実行されなくなる可能性があります。Apache の httpd.conf の User および Group ディレクティブを変更したときには、kabachown を使用して対応するのではなく、Kabayaki を再インストールする必要があります。Kabayaki が稼動しているシステムの Apache をバージョンアップするときには、バージョンアップ前と同じユーザーとグループでプロセスが動作するように、注意して設定してください。

SELinux を無効に設定

Kabayaki が正常に動作するためには、SELinux が無効に設定されている必要があります。特に RedHat Enterprise 4.0 以降では、既定値で SELinux が有効に設定されているため、注意が必要です。

/etc/sysconfig/selinux ファイルの中に

```
SELINUX=enforcing
```

という行が存在していたならば、エディタ等を使用して

```
SELINUX=disabled
```

と変更した後、マシンを再起動してください。

httpd.conf の修正

httpd.conf をスーパーユーザー権限で編集します。RPM パッケージで提供されている Apache をインストールしたときの httpd.conf のパスは /etc/httpd/conf/httpd.conf です。ソースから Apache をインストールしたときは、デフォルトでは /usr/local/apache/conf/httpd.conf です。

/var/kabayaki/etc/apache.conf を、httpd.conf に Include する必要があります。httpd.conf の末尾に、以下の 1 行を追加してください。

```
Include "/var/kabayaki/etc/apache.conf"
```

さらに、日本語が文字化けしないで表示されるようにするために、AddDefaultCharset の指定行の変更が必要になることがあります。Apache HTTP Server 2.x の httpd.conf は、デフォルトでは AddDefaultCharset が ISO-8859-1 または C や UTF-8 に設定されているため、変更が必要です。http.conf にそのような設定があった場合は、該当行を削除するか以下のようにコメントアウトします。

変更前 :

```
AddDefaultCharset ISO-8859-1
```

変更後 :

```
#AddDefaultCharset ISO-8859-1
```

以上の設定が完了したら、Apache を再起動します。

```
# apachectl graceful
```

または

```
# /etc/init.d/httpd restart
```

動作確認

Web ブラウザで Kabayaki 管理画面へアクセスして、動作確認をします。Kabayaki 管理画面の URL は、

http:// *インストール先のホスト名* /kabayaki/cgi-bin/admin/rc.cgi

です。たとえば、ホスト名が kabayaki.example.com ならば、下記の URL になります。

```
http://kabayaki.example.com /kabayaki/cgi-bin/admin/rc.cgi
```

Apache が 80 番以外のポートで動作しているときは、URL のホスト名の後に「: *ポート番号*」を追加します。ホスト名が kabayaki.example.com、ポート番号が 8080 ならば、以下の URL になります。

```
http://kabayaki.example.com:8080/kabayaki/cgi-bin/admin/rc.cgi
```

Kabayaki が正しくインストールされていると、管理画面が表示されます。

管理画面左側の一覧をメインメニューと呼びます。メインメニューは、サーバー関連メニューとインデックス関連メニューから構成され、オプションパックである sansyo パッケージがインストールされている場合は、さらに一覧が追加されます。

Kabayaki と sansyo パッケージの両方をインストールした状態での画面イメージ (製品版):

管理画面左側の一覧をメインメニューと呼びます。メインメニューは、サーバー関連メニューとインデックス関連メニューから構成されています。

sansyo パッケージがインストールされていて、ライセンスファイルが正常にインストールされていなかったり、ライセンスが期限切れになっていたりすると、Kabayaki 管理画面にはライセンスエラーのメッセージが表示されます。

このような場合は、辞書機能および Web スパイダ機能は使用できません。また、製品版付属の文書フィルタによる PDF 文書や Office 文書等をインデクシングすることもできなくなります。

第 2 章　アンインストール (Ret Hat Linux)

Kabayaki と関連パッケージの削除

Kabayaki のアンインストールも、スーパーユーザーの権限で実行してください。アンインストールを実行する前に、必要に応じて、ライセンスファイル、インデックスのディレクトリや設定ファイルを他に退避しておいてください。

また、インデクシングを自動実行する crontab 設定が残ったままにならないようにするためには、Kabayaki のインデックスは全て削除してから、アンインストールを実行するようにしてください。

アンインストールの手順は、sansyo パッケージがインストールされているかどうかで異なります。

sansyo パッケージのアンインストール

オプションの sansyo パッケージが導入されているときは、kabayaki パッケージより先に sansyo をアンインストールします。

```
# rpm -ev sansyo
```

sansyo パッケージだけをアンインストールして、kabayaki パッケージを残して引き続き Kabayaki を運用すると、コンテンツ設定で指定していた http:// で始まるコンテンツが、以後インデクシングできなくなります。

また、たとえば、sansyo がインストールされていたときに以下のように設定されていたコンテンツが、

```
http://www.example.com/documents/
```

sansyo だけをアンインストールした際に、以下のように表示されてしまうこともあります。

```
http://http://www.example.com/documents/
```

kabayaki パッケージのアンインストール

次に kabayaki パッケージをアンインストールします。kabayaki パッケージだけをインストールしている場合は、手順はここからとなります。

```
# rpm -ev kabayaki
```

上記のコマンドを実行しても、/usr/libexec/kabayaki、/var/kabayaki 以下には削除されないファイルが残るため、これらを手動で削除します。

```
# rm -rf /usr/libexec/kabayaki/ /var/kabayaki/ /usr/share/kabayaki/
```

http.conf に追加した Include 行 :

```
Include “/var/kabayaki/etc/apache.conf”
```

も手動で削除する必要があります。

また、httpd の実行ユーザーの crontab が設定されていたら、これも手動で削除します。

さらに、必要であれば、Kabayaki が依存しているソフトウェアもアンインストールします。ただし、Kabayaki 以外のパッケージが依存していることもあるため、アンインストールする場合は、依存関係に注意してアンインストールしてください。

```
# rpm -ev パッケージ名
```

付録 A　安全に運用するための諸設定

インターネットへ公開するサイトで Kabayaki を使用する場合など、Kabayaki の機能へのアクセスを制限したいときの、Red Hat Linux での設定方法について説明します。

アクセス制御 (Red Hat Linux)

この表は、Kabayaki の機能とディレクトリの対応表です。

表 1 Kabayaki で提供している機能とディレクトリとの対応

管理機能	/usr/libexec/kabayaki/admin
管理機能のヘルプ	/var/kabayaki/public_html/admin/help
検索機能	/usr/libexec/kabayaki/search
検索トップページ	/var/kabayaki/public_html/search
バージョン表示	/usr/libexec/kabayaki/pub

アクセスを制限したい機能に対応するディレクトリへのアクセスを、httpd.conf の設定で制御することによって、Kabayaki の機能へのアクセスを制御することができます。以下は、パスワード認証されたユーザーだけが、管理機能にアクセスできるように設定する例です。

httpd.conf の編集

httpd.conf に以下のような記述を追加します。

```
<Directory /usr/libexec/kabayaki/admin>
    AuthUserFile /var/kabayaki/etc/htpasswd
    AuthType Basic
    AuthName kabayaki
    require valid-user
</Directory>
```

```
<Directory /usr/libexec/kabayaki/pub>
    AuthUserFile /var/kabayaki/etc/htpasswd
    AuthType Basic
    AuthName kabayaki
    require valid-user
</Directory>
```

AuthUserFile の作成

.htaccess ファイル内で AuthUserFile に指定されている /var/kabayaki/etc/htpasswd を新規作成し、admin というユーザーを追加して、パスワードを設定します。

```
# htpasswd -c /var/kabayaki/etc/htpasswd admin
New password:
Re-type new password:
Adding password for user admin
```

それから、Apache を再起動します。

```
# apachectl graceful
```

または

```
# /etc/init.d/httpd restart
```

以上で、Kabayaki の管理機能画面を表示する前に、パスワードによるユーザー認証が実行されるようになります。

htpasswd で生成されたファイル (上の例では /var/kabayaki/etc/htpasswd) は、Apache の HTTPD サーバーのプロセスから読み取り可能である必要があります。正しいユーザー ID とパスワードを入力しても認証が通らないときは、パスワードファイルのアクセス権を確認してください。

```
# ls -l /var/kabayaki/etc/htpasswd
# chown +r /var/kabayaki/etc/htpasswd
```

htpasswd コマンドの詳細については、Linux のオンラインマニュアルまたは Apache の説明文書を参照してください。